

2021 年 2 月 4 日
千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR 部

2021 年 3 月期第 3 四半期説明会(電話会議)発表要旨 (2021 年 2 月 2 日開催)

2021年2月2日に開催致しました2021年3月期第3四半期決算説明会(電話会議)における弊社の発表内容の要旨を以下にまとめております。

【決算概要】

1. ハイライト(P1)

- 業績は、通期予想に向けて引き続き順調に推移している。完成工事高、純利益は通期予想に対して各々87%、92%の進捗。
- 受注は、海外の大型ターゲット案件が本年度第 4 四半期に最終投資決定(FID)が予定されており、受注を目指していく。
- 成長戦略は、水素を含めたグリーンエネルギーの推進、医薬・ライフサイエンス分野の拡大、デジタルトランスフォーメーションは着実に進捗。

2. 損益計算書(P2)

- 完成工事高は 2,430 億円、通期予想の 87%の進捗。
- 完成工事総利益は 155 億円で、通期予想の 60%の進捗。
- 完成工事総利益率は 6.4%。通期予想 9.3%を下回っているが、新型コロナウイルス感染症拡大が想定以上に長引いていることにより、国内外の案件に対する影響を今回コストとして織り込んだこと、及び新規案件の最終投資決定の遅れによる稼働率の低下が原因。
- 販売費・一般管理費は 94 億円、前年同期比 25 億円減少。多岐に亘る項目でのコスト削減が着実に成果を上げている。
- 純利益は 65 億円で、通期予想の 92%と順調に進捗。

3. バランスシート(P3)

- 資産は 3.851 億円から 3,337 億円に 514 億円減少。キャメロン LNG 案件の完工など、手持工事の進捗に伴い、資産項目では、現金・預金等、JV 持分資産、負債項目では営業負債が減少していることによる。

- 自己資本は、12 月末で 324 億円、自己資本比率は 9.7%に向上した。今後も利益を着実に積み上げることで、中期経営計画で目標としている自己資本比率 20%以上の早期達成を目指す。

4. 利益要因分析(P4)

- 完成工事総利益の内訳については、エネルギーと地球環境の事業分野別の金額に加えて、新たに、「再生計画策定前」と「再生計画策定後」の成約案件別の金額を開示。
- 第 2 四半期の完成工事総利益 155 億円の内訳は、事業分野別では地球環境が 15 億円の赤字。第 3 四半期でコロナウィルス感染症拡大の影響により、国内案件で追加コストを見込んだことが主な原因。第四半期は引き続き遂行中案件で収益を着実に積み上げる計画で、通期では地球環境分野は黒字化する予定。
- 「再生計画策定前」と「再生計画策定後」の成約案件別では、「再生計画策定前の成約案件」の完工総利益は 52 億円、「再生計画策定後の成約案件」の完工総利益は 103 億円。2019 年 5 月の再生計画発表後、収益の安定的な積み上げが順調に進んでいる。
- 販管費は、コスト削減を進めた結果、前年同期比マイナス 25 億円。
- 営業外損益は主に為替差益により 1 億円、特別損益・法人税等で、関係会社売却益や米国法人税の還付により 2 億円が寄与して、純利益は 65 億円を確保。
- 以上の結果、自己資本は 324 億円、自己資本比率は 9.7%に向上した。

5. 受注高・受注残高(P5)

- 第 3 四半期の受注高は 1,028 億円。海外大型ターゲット案件は本年度第 4 四半期に最終投資決定が予定されており、受注を目指していく。
- 地球環境分野では、医薬ライフサイエンス分野を中心に受注を積み上げた。
- 受注残高は 6,268 億円を確保。

6. 通期業績予想は変更なし

付表

完成工事高、受注高、受注残高の分野別・地域別内訳(P6~P8)

(説明割愛)

参考資料**I. 成長戦略(P10~P15)****1. 当社が描くグリーンエネルギー(P10)**

- スライドは当社のグリーンエネルギー分野への取り組みを示しており、緑色の箇所は当社が重点的に進めている取り組み。
- 上流の化石燃料の低炭素化や再生可能エネルギーに始まり、下流の蓄電池、エネルギーマネジメントビジネス展開につなげていく。
- 当社が進めるグリーンエネルギー戦略の真ん中に水素があり、ここが当社の特色。

2. スペラ水素(P11)

- 本日の日経新聞に掲載されたが、世界初となる国際間水素サプライチェーン実証プロジェクトを2020年12月に完了、当社の開発したスペラ水素の実用化に目途を付けた。
- スペラ水素は水素社会加速に向けた最もハードルの低い現実的なソリューションであると自負している。

3. 炭素循環(P12)

- 火力発電所から排出されるCO₂を分離・回収する設備を昨年10月に完工、顧客に引き渡し済みで、現在実証運転中。
- 当社の排煙脱硫技術であるCT-121がCO₂分離回収の前処理設備に採用されている。
- 火力発電所から出力されるCO₂の50%以上を回収出来る設備は日本初。

4. エネルギーマネジメント(p13)

- 北海道で世界最大規模の蓄電池システムを建設中。
- 再生可能エネルギーの普及が今後ますます進んでいく一方、発電量が天候や自然環境に左右されることから、電力供給が不安定になりがちであるため、当社は蓄電池システムによる再生可能エネルギー電力の供給安定化を通して、エネルギーマネジメントの取り組みを進めていく。

5. 医薬・ライフサイエンス(P14)

- 昨年、遺伝子組み換えタンパク質による新型コロナウイルス向けワクチン原薬製造プラントの設計・調達・建設業務を塩野義製薬(株)殿から受注し、遂行中。コロナワクチンを出来る限り

早く、皆さまのお手元に届けるべく全力を挙げて建設中。

- 医薬品原薬・中間体の連続生産技術開発について、ハイドロカーボン分野で培った当社の水素化反応プロセスの知見を応用して、連続生産プロセスの確立を目指している。
- 健康意識の高まりを受けて、医薬・ライフサイエンス技術の深化が進んでおり、医薬・ライフサイエンス分野を拡大していく。

6. デジタル・トランスフォーメーション(P15)

- 当社のデジタルプロダクトのブランド名は EFEXIS®。その強みは、大きな設備改造なしに、プラントの運転・保全の可視化から自律化までを実現出来ること。運転の最適化、アベイラビリティ向上、保全の効率化により、顧客の資産価値の向上に貢献する。
- PlantStream™ は、プラントエンジニアリングの知見と自律的 CAD を融合した革新的なプラント空間設計システム。プラントの空間設計にかかる工程を約 80%削減し、従来の 5 倍の速度で三次元モデルを作成出来る。プラント・エンジニアリング業界に販売を開始しており、大変注目されている。

II. 主要遂行中、主要完工案件(P16)

- 主要遂行中案件は、いずれの案件も、顧客と協力して、新型コロナウイルス感染症拡大の対策を講じて工事遂行を進めている。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。